



令和7年度 東京都北区立王子桜中学校

令和7年6月 第3号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子2-7-1

Tel 03-5902-3155

王子桜だより

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 自主 創造 飛翔

《とっても素敵な横断幕を2枚作成していただきました》

とっても素敵な横断幕を2枚、PTAの皆さまに作成していただきました。

体育館に掲示させていただきました。体育祭、連合陸上大会、各部活動の大会などにも使用できます。本当にありがとうございました。大切に使ってまいります。



《小学校と合同で引き取り訓練を行いました》

小学校と合同で引き取り訓練を行いました。5月7日（水）に地震を想定した避難訓練を実施し、14時より各教室にて生徒のみなさんを保護者のみなさまに引き渡す訓練を行いました。王子小学校、東十条小学校に弟さん・妹さんがいらっしゃる場合には、先に小学校で引き取りを行ってから中学校に来ていただきました。保護者のみなさまには、大変ご多用の中、訓練にご協力いただき誠にありがとうございました。



《王子東児童館で第1回ボランティア会議が行われました》

5月7日、王子東児童館とのボランティア・コラボレーション、第1回ボランティア会議が王子東児童館で行われました。本校からは、生徒会、園芸ボランティア部、吹奏楽部、科学部、美術部、家庭科部の代表生徒のみなさんが参加してくれました。ワンパークまつり、ジャガイモの収穫（7月頃）、サツマイモの収穫（11月頃）、ジャガイモ苗植え（3月）、クリスマスリース作り（12月頃）、演奏会・実験体験（年3回）などたくさんのボランティアコラボレーションがあり、各部ごとに担当して活動を進めていきます。このように、中学生が活躍できる場をたくさんご用意していただき、本当にありがとうございます。各部の生徒みなさん、今年もどうぞ宜しくお願いいたします。



《大きな成果をあげたすばらしい修学旅行でした》

3年生は、修学旅行実行委員会スローガン「義務教育のラストラン！羽ばたけ南風に乗る鳥！」のもと、5月18日（日）から20日（火）まで修学旅行に行ってきました。1日目は、新幹線で新大阪に向かい貸切バスで「人と防災未来センター」「震災メモリアルパーク」へ向かい、防災学習をしました。その後、バスで奈良の宿舎に向かいました。2日目は、全体行動で東大寺を見学し、その後、奈良・京都市内班別行動。円山公園内の京風日本料理店で夕食・高台寺で能を鑑賞しました。3日目は京都市内班別タクシー行動でした。

修学旅行期間、雨が降り続けるであろうと心配されましたが、3年生のみなさんの日頃の行いがよく、この3日間お天気にも恵まれました。3年生のみなさんが、自分たちの力で、様々なことを協議して決定し、つくりあげた修学旅行が見事に成功しました。

3年間防災をテーマに取り組んできた3年生は、集大成として、神戸での震災学習で更に学びを深めただけでなく、自助・共助・公助の精神を改めて心に刻みつけることができました。本当に素晴らしいことです！この修学旅行で3年生のみなさんが、大きな成果をあげ、見事に大成功となったのは、1年生の時から防災教育や生徒の自主性を重んじた教育を一貫して続けて来てくださった先生方のご尽力があったからこそです。本当にありがとうございました。



【王子製紙（現・王子ホールディングス）】

渋沢栄一翁は、国産の紙を日本中に供給しようという高い志のもと、1873(明治 6) 年に「抄紙会社」を設立します。1876(明治 9) 年の「製紙会社」への改称を経て、1893(明治 26) 年には「王子製紙」と改称しました。王子製紙は第二次世界大戦後の財閥解体により、1949(昭和 24) 年、十條製紙・本州製紙・苫小牧製紙の 3 社に分割されました。これにより、王子製紙十條工場は、十條製紙(現・日本製紙)に引き継がれました。現在、その跡地は北区王子五丁目団地などになっています。3社に分割後、苫小牧製紙が 1960(昭和 35)年に王子製紙となり、幾度かの合併・改称を経て、現在の「王子ホールディングス」となり、現在、本社ビルが銀座4丁目にあります。

ティッシュやトイレットロール、紙オムツのネピアブランドは、このグループ企業のブランド商品です。



王子ホールディングス本社ビル 銀座4丁目

【写真提供 王子ホールディングス】



【写真提供 王子ホールディングス】



【資料提供 王子ホールディングス】

王子グループは、1873 年の創業以来、150 年以上にわたり事業領域を拡大し、成長を続けてきました。「革新的価値の創造」「未来と世界への貢献」「環境・社会との共生」を経営理念に掲げ、この理念を基本方針としてサステナビリティについての取り組みを進めることで、成長を続ける企業グループを目指すとともに、変化に対応し未来に向けて持続可能な価値を創出しています。

王子グループは地球環境問題が注目される 100 年以上前から植林事業を開始し、1930 年代当時の社長・藤原銀次郎翁の「木を使うものは、木を植える義務がある」という考えのもと、森林を健全に育ててきました。現在、社有林・王子の森は、国内外で 63.5 万 ha(東京都の面積の約 3 倍)にまで広がっています。近年は祖業である紙にとどまらず、環境に配慮したサステナブルパッケージや、バイオエタノール、木質由来の医薬品といった木質バイオマスビジネスを次世代の中核ビジネスとして育成し、さらなる成長と進化へ向けて取り組んでいます。

また、王子グループは、グローバルに事業を展開する企業グループとして、国内外の環境および社会的課題の解決に貢献することを目指します。特に、「気候変動問題への対応」および「人権を尊重する責任」は、重要なグローバル行動基準と考え、従業員のみなならず、原材料の調達から製品の製造、在庫管理、物流、そして販売まで、最終的に消費者の手に届くまでの一連の流れで、王子グループの方針を共有し、その周知徹底を図っています。



【資料提供 王子ホールディングス】

さらに、生物多様性プログラムという取組も特徴的です。例を挙げると、グループ会社の Pan Pac は、希少動物「キウイ」の保護活動をニュージーランド環境省や市民ボランティア等と共同で行っています。本活動は、キウイ幼鳥を保護するため約 40ha の保護区を設け、周辺地域から幼鳥や卵を捕獲し、孵化した幼鳥や捕獲した幼鳥を保護区で育成し、野生に戻すものです。また、王子グループの海外植林地の中で最大規模を誇るのが、ブラジル・ミナスジェライス州でユーカリの植林・パルプ事業を行っている CENIBRA です。同社は 25 万 ha の社有林を保有・管理し、うち 10 万 ha を保護林エリアとして維持しています。保護林エリアは、ブラジルの森林法で生物多様性保全を目的とした保護の対象となっており、自然林の他、水源地を含む河川や湖沼周辺の在来植生も保護しています。この内、絶滅危惧種の「ムトゥン(アカハシホウカンチョウ)」等の野鳥を対象に、1990 年から地元 NGO と協力し、繁殖・飼育して自然に返す活動を行っています。これまでに計 7 種 480 羽の放鳥を行い、放鳥個体から 300 羽以上が野生で産まれています。現在は、州の協力を得て、CENIBRA 自社林に隣接する州立公園内へも放鳥することを計画し、未だ絶滅危惧レベルが高い 3 種の更なる個体数増加と生息地拡大を目指しています。その他国内でも、王子グループは、北海道猿払村の猿払山林の河川域に生息する絶滅危惧種「イトウ」の保護や高知県木屋ヶ内の複数の体色を持つ体長 20cm ほどの渡り鳥ヤイロチョウの保護活動なども行っています。森林は木材生産の他、豊かな水を貯え、山崩れなどの自然災害を防ぎ、野生動物を育てています。また、二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防ぐなど、森林の持つさまざまな機能が見直されています。2050 年までのカーボンニュートラル実現に向けて世界が大きく舵を切る中、王子グループは、事業と直結した持続可能な森林経営を実践するとともに、脱炭素社会の実現に向けて、森林資源の価値を高め、王子の森のさらなる拡大も視野に歩みを進め、サステナビリティへの取り組みを進め、社会的価値および経済的価値を創出し、真に豊かな社会の実現へ貢献しています。



キウイ



ムトゥン(アカハシホウカンチョウ)



イトウ



ヤイロチョウ

【いきもの図鑑より】